

「2025 ネットワーク都市土浦」

杉原賢一 山本純 中川浩志 薄井宏行 村田瑞穂

1. 20 年後の土浦ストーリー

2025 年、土浦市は日本国内でも有数の活気のある都市として復活した。かつての衰退一方の頃の面影はなく、隣接するつくば市、牛久市と共にその役割を補完しあう都市となっていた。

まず、土浦市の最大の特徴は観光産業にある。筑波山→新治フルーツライン→霞ヶ浦を周遊するバスツアーが盛況を収め、新治地区は日本有数の果樹園エリアとなり活性化している。霞ヶ浦においては親水公園が新たなデートスポットとして注目され、首都圏の喧騒に飽きた人で静かににぎわってきた。20 世紀後半から問題視されてきた霞ヶ浦の水質汚濁も住民の努力により、一時期の状況からは大幅に回復してきた。霞ヶ浦のイメージもアップし、霞ヶ浦といえば土浦といわれるようになった。

土浦を語る上で、魅力ある駅前地区の存在も欠かせない。江戸時代以降、繁栄を誇り県南中心都市の顔であった中心地区は一時期人通りさえまばらな通りになってしまったが、駅前再開発事業を中心に今では土浦の顔として復活した。

土浦市のもうひとつのポテンシャル、それは利便性である。東京駅から常磐線が直通したことにより、首都圏はいままでもなく日本全国からのアクセスが飛躍的に向上したことで、土浦における住環境が人気を集めている。百里空港の開港、圏央道の全線開通ことも要因であったろう。

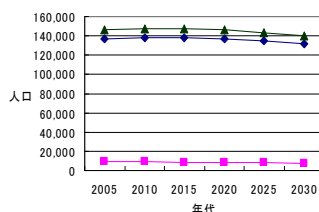
ソフト面での充実も著しい。土浦市は住民参加のまちづくりを提唱してきた。その結果、投票率が常に全国トップ 10 入りするようになるなど、市民の意識も高まってきている。また、土浦市にも少子高齢化の波は押し寄せているものの、行政の柔軟な対応により高齢者が元氣まちとして注目されている。

II. 20 年後の土浦市の概要

(1) 人口

新治村も含めた新土浦市の人口は 144,433 人(平成 17 年 11 月 1 日、両市村調べ)で、将来人口は 20 万人と想定されている。しかし今後、試算によると 2015 年の 147,173 人をピークに減少に転じ、現在から 20 年後に当たる 2025 年には 143,475 人と現在の水準を下回る予測が立てられている。(H14 国立社会保障・人口問題研究所試算)

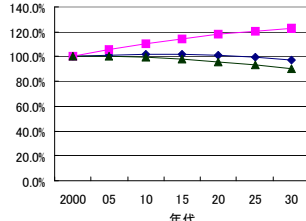
表 1：土浦市の人口推移



(2) 周辺市町村

隣接するつくば市は推計人口 23 万人と、水戸市と共に茨城県を代表する都市として発展する。つくばエクスプレスは開業 20 年を迎え、周辺開発も一段落する。将来人口をみると、成長率の上位はつくば市、牛久市などがある。しかし、新興都市とは対照的に水戸市などは人口の減少が著しい。

表 2：将来人口比



(3) インフラ整備

20 年後の土浦市周辺における主要なインフラ整備状況について以下に記述する。

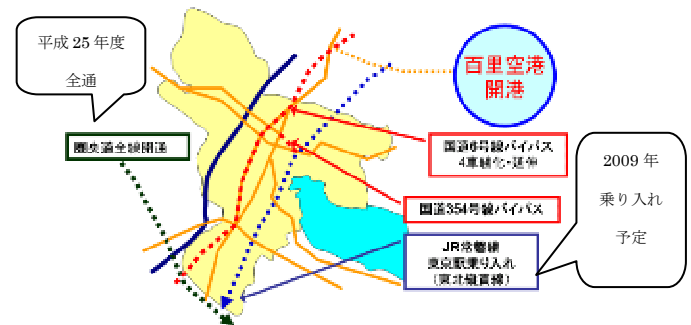


図 1：インフラ整備状況

III. 方針

私達は 20 年を一つのスパンとして、20 年後である 2025 年の土浦の姿を描いた。そこから現在とのギャップを捕らえ、今後の政策を提案することにした。計画期間を 20 年と設定した理由は、私達は霞ヶ浦を土浦の最も大切な資源であると考え、霞ヶ浦再生までに 20 年を要すると見込んだためである。

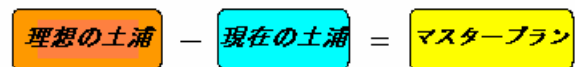


図 2：方針図

IV. コンセプト

私達は今後土浦市の具体的政策を考えていく上で 2 つのコンセプトを考えた。

1、ネットワークの構築

周辺都市との連携を深め、土浦市の長所・短所を補完しあう。

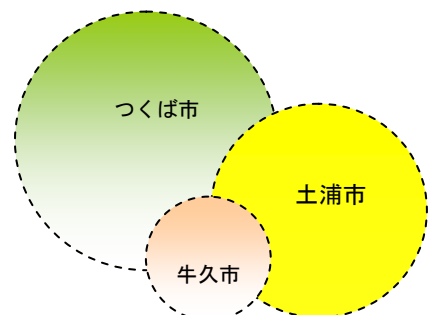


図 3：周辺都市との連携のコンセプト図

2、市民意識の構築

住民参加によるまちづくりであることを認知してもらう。

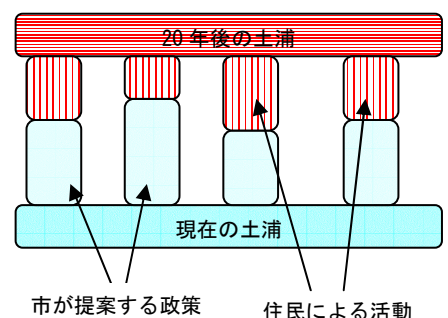


図 4：市民意識のコンセプト図

IV、具体的政策

以上を踏まえ、私達は以下の8項目について今後の政策を提案する。

1、観光ネットワーク

＜課題＞観光客の集客

＜政策＞筑波山、霞ヶ浦を周遊する観光ルートの確立

＜市民のメリット＞経済活性化

＜市外との連携＞市の知名度アップ、観光地としての確立

TX 開通後筑波山への観光客は前年度比 112%と増加している。つくば駅からのシャトルバスも増便をしている現状である。この現状を受け、将来的に土浦が持つ霞ヶ浦、つくばが持つ筑波山、新治が持つフルーツライン。これらの観光資源を生かした観光周遊ルートを構築し、観光産業の活性化を図る。

表 3：筑波山観光客の増加

	2004 年	2005 年
筑波山観光客数（9～11 月）	845,700 人	947,600 人

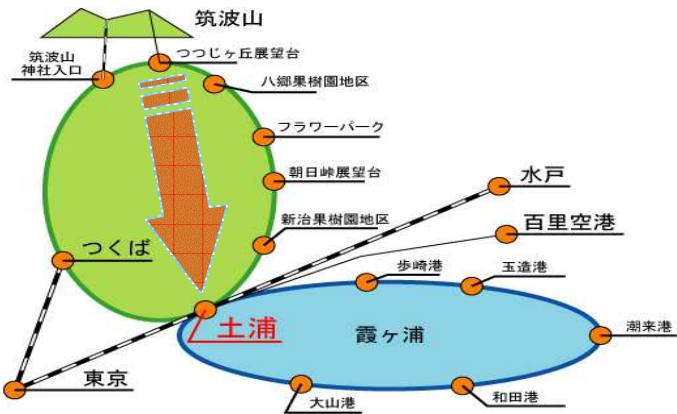


図 5：土浦周辺の観光ルート

2、交通ネットワーク

＜課題＞市内における自動車交通の混雑

＜政策＞DMV の活用、既存バス路線の活性化

＜市民のメリット＞高齢者にもやさしい交通体系の整備

＜市外との関連＞地域の交通の円滑化

・下図を見比べてみると、土浦駅前の交通渋滞は変化がない。

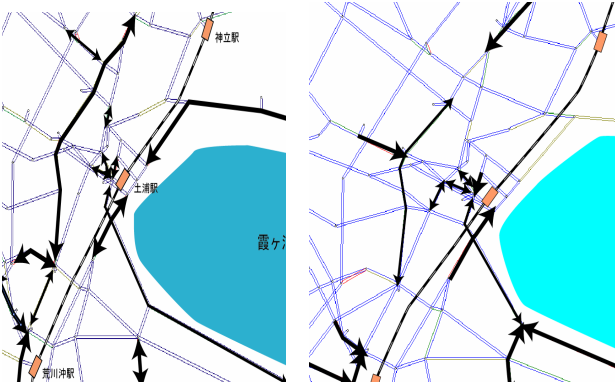


図 6：2005 年の交通状況

図 7：2025 年の交通状況

3、住民ネットワーク

＜課題＞市民へのまちづくりへの参加を促し、投票率を向上させる

＜政策＞NPO の設置奨励、地域別 NPO 協議会の設立

＜市民のメリット＞行政への参加の意識が生まれる

＜市外との関連＞市民参加の都市というイメージが確立される

4、自然ネットワーク

＜課題＞霞ヶ浦における水質汚濁

＜政策＞市民主体の霞ヶ浦の水質浄化運動の促進

＜市民のメリット＞市民の手で環境を改善したという意識の構築

＜市外との関連＞土浦市及び、霞ヶ浦のイメージアップ

現在、霞ヶ浦周辺には約 60 の市民主体の環境保護団体があり、霞ヶ浦浄化に関する市民運動が活発である。また、イタリア、マジョーレ湖では市民活動により水質が浄化した事例もあり、今後市民活動も促進していくことで霞ヶ浦を浄化する。

5、住環境ネットワーク

＜課題＞少子高齢化をうけた住宅地の空洞化

＜政策＞オープンスペースの緑化

＜市民のメリット＞魅力ある街区の形成

＜市外との関連＞緑地面積の増加、土浦のイメージアップ

今後、少子高齢化の波を受け土浦市においても住宅の過剰供給などが問題になってくると思われる。その空洞化したオープンスペースに対して、緑地を整備する。

6、福祉ネットワーク

＜課題＞2025 年、高齢者は 3 人に 1 人に

＜政策＞土浦シニアサポートバンクの設立

＜市民のメリット＞社会活動への参加を通じた自己実現の場の提供

＜市外との関連＞つくば市の知識の活用、連携

＜関連事例＞大阪シニアサポートバンクなど多くの市町村で実績がある。

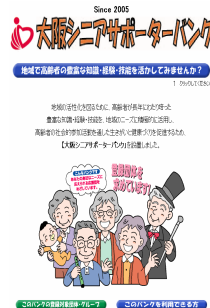


図 8：大阪シニアサポートバンク

7、メディアネットワーク

＜課題＞インタラクティブ通信事業の発展

＜政策＞情報化社会への環境整備

＜市民のメリット＞情報共有の円滑化、市民発の情報提供

＜市外との関連＞対外市協力で地上波デジタル番組提供

8、教育ネットワーク

＜課題＞地域とその問題について理解を深める教育の整備

＜政策＞土浦市民大学の開校、周辺大学・研究機関との連携

＜市民のメリット＞地域の問題と現状の把握による意識の向上

＜市外との関連＞外部の人的資源活用によるネットワークの構築

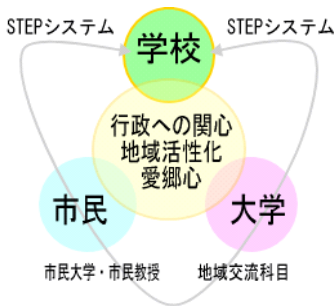
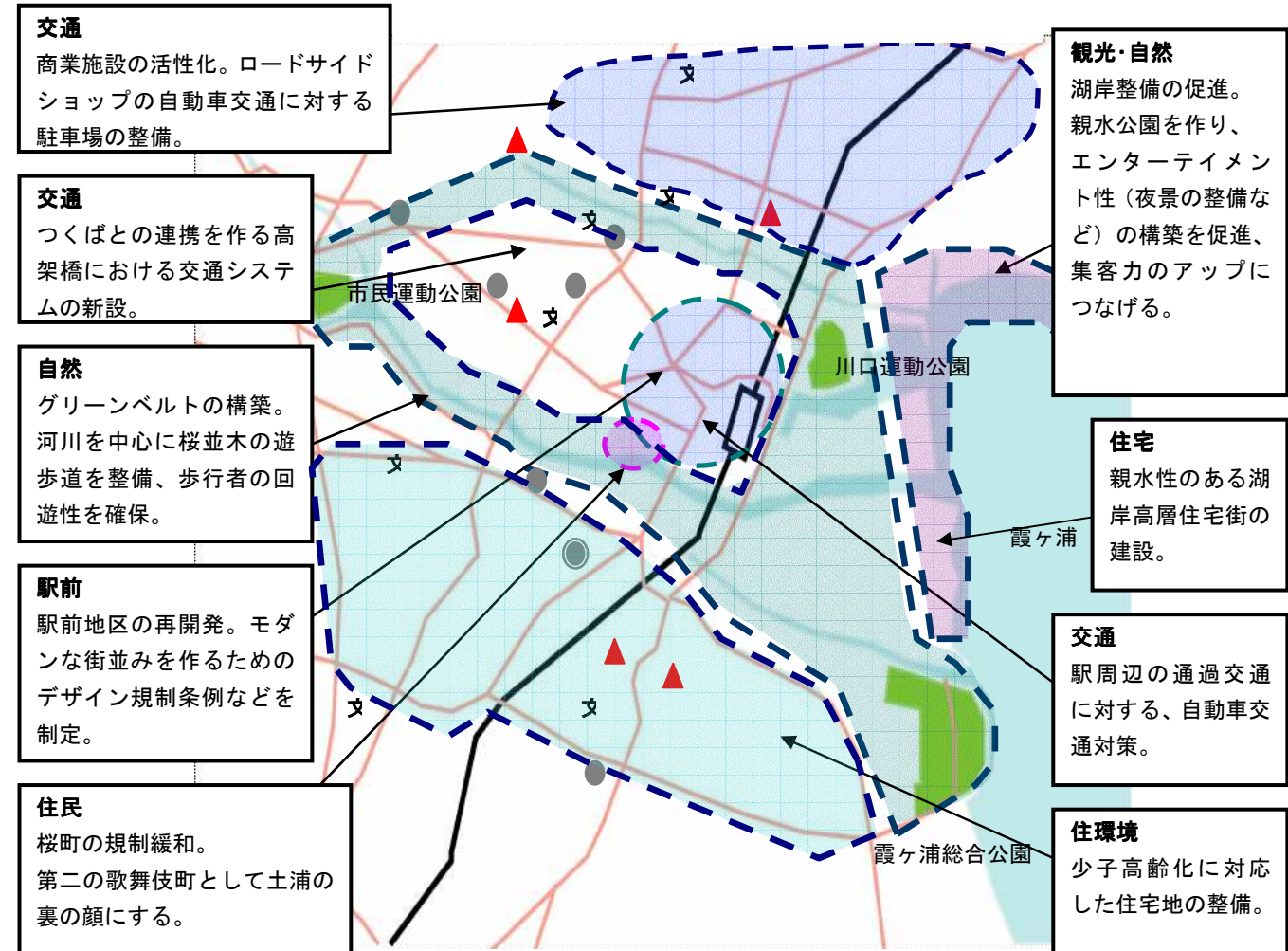
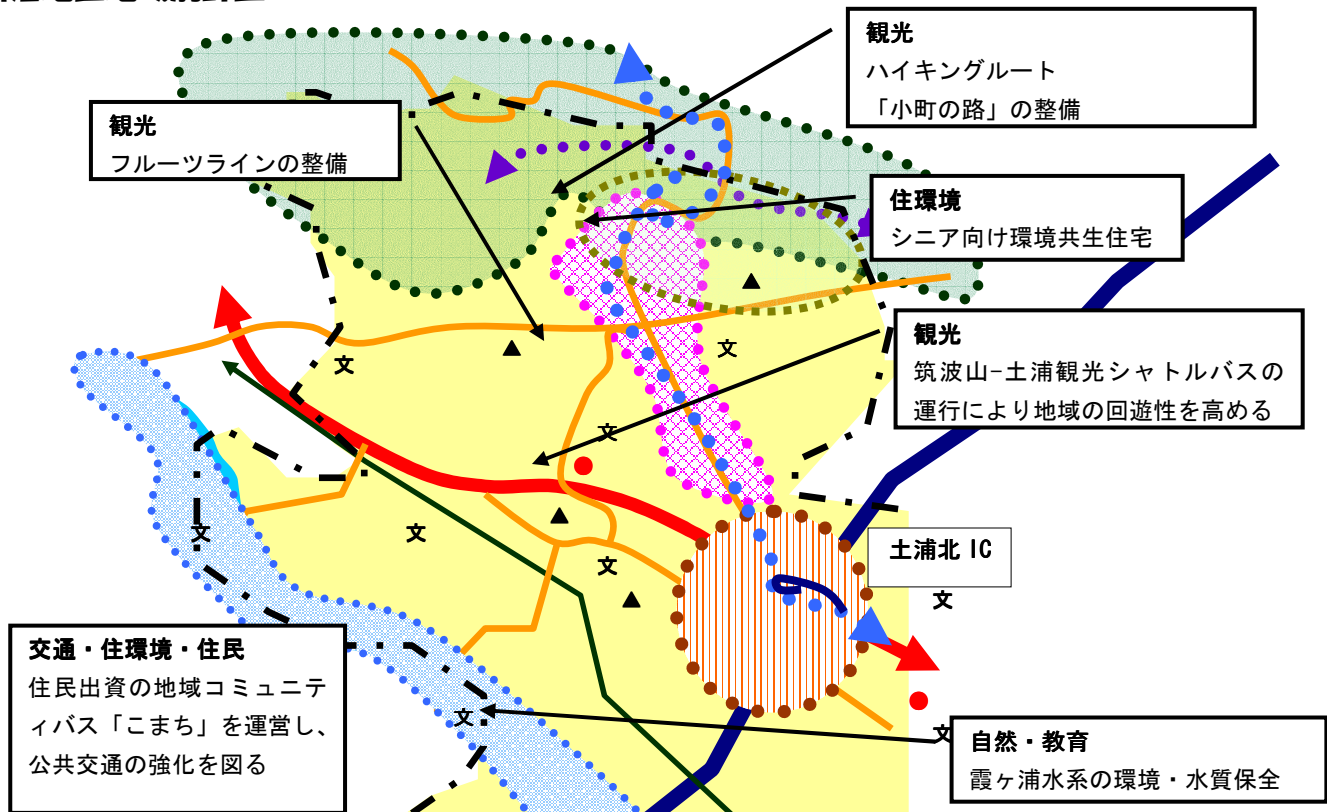


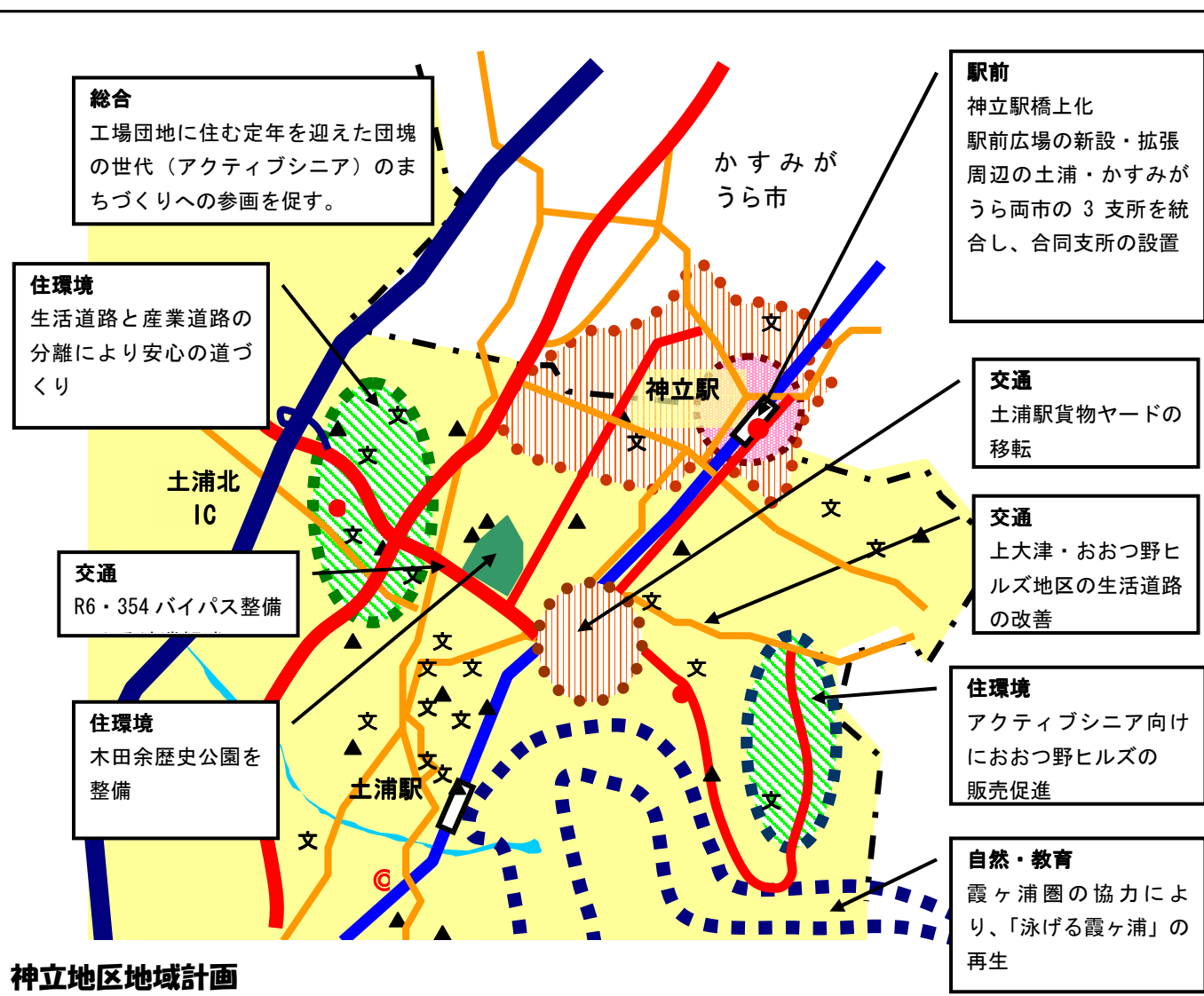
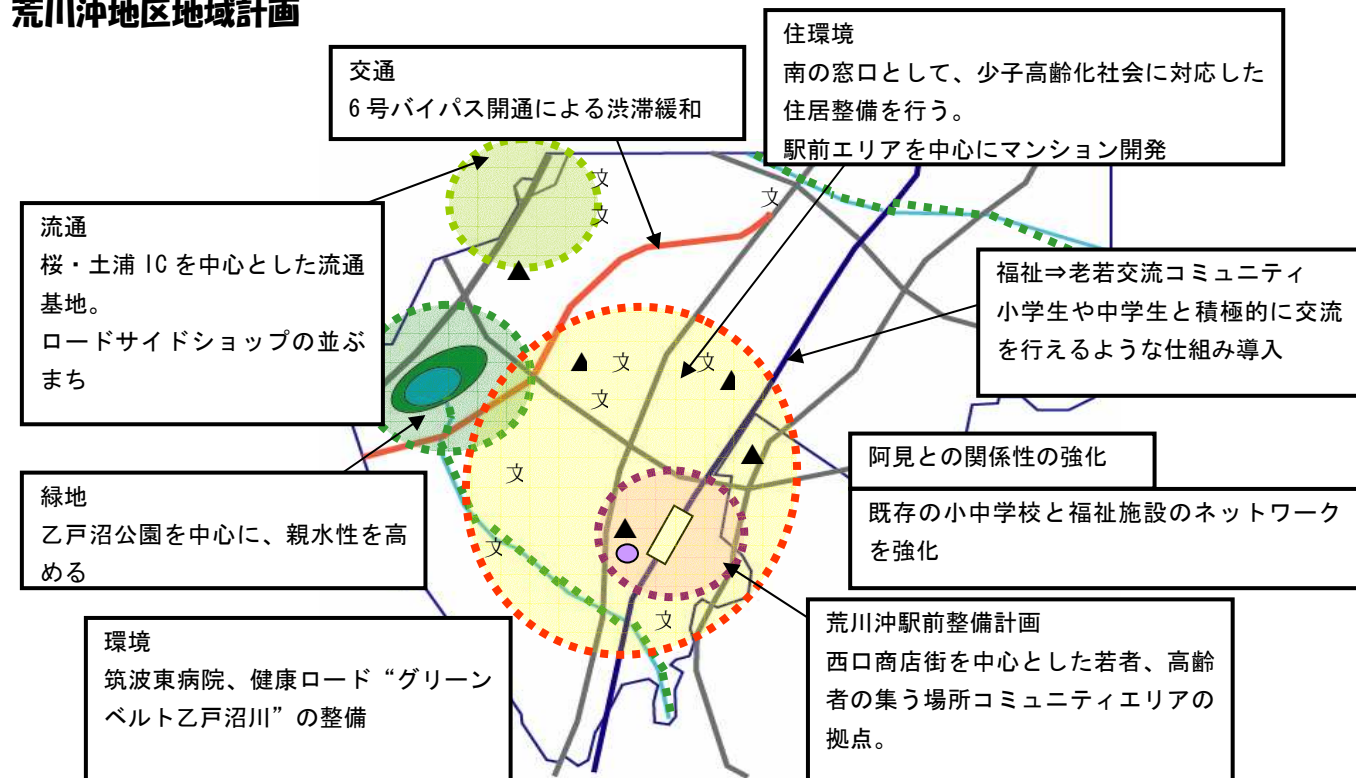
図 9：教育ネットワークの概念図

新治地区地域別計画



中央地区地域別計画

荒川沖地区地域計画



神立地区地域計画